

『ホトケドジョウ』って、どんな生き物？

- 体の褐色斑点と4対(8本)の口ひげが特徴。
- 澄んだ水が緩やかに流れる水草の生えた場所に生息している。
- ほ場整備等による水路のコンクリート化などの影響を受けて生息地が消滅してきている。
- 絶滅危惧 I B 類(近い将来、絶滅のおそれがある生き物)に指定されている。
(出展)レッドデータブックやまがた より



◇ 生き物調査ってどうやるの？ (水生生物編)

【準備するもの】 採捕用のタモ網、カゴ網、バケツ、観察用の透明なケースなど。

【服 装】 胴長、長ぐつ。

【そ の 他】 参加者は保険に加入しましょう。



【うまく採捕するには】

- ① 浅い水路であれば、タモ網を使って採捕する。上下流から挟み込むなどして生物を追い込むように採捕すると効果がある。
- ② 深い水路やため池の場合、カゴ網等にエサを入れたトラップを数日間 設置して採捕する。安全のため、施設内に入っている採捕は行わない。



【観察、記録方法】

- ① 透明なケースに入れると観察しやすい。
- ② 記録写真を撮る。
- ③ 大きさや数、捕まえた場所を記録する。
- ④ 採捕した生き物は元の場所に戻す。



ケースで見ると、魚などの泳ぎなどがよく観察できる。



調査後に啓発看板を設置して地域一体での保全を誓った。

◇ 記事に関するお問い合わせ ◇

山形県最上郡真室川町農林課 TEL : 0233-62-2111 (代表)

山形県最上総合支庁農村計画課 TEL : 0233-29-1342 (直通)



スナヤツメ



シマドジョウ



**地域に棲む希少な生き物
ホトケドジョウの生息状況を調査**

真室川町で、多面的機能支払交付金を活用する活動組織「大平地域資源保全会」の高橋代表は、生態系保全活動を地域住民とともに取り組んでいる。活動の一環として、地域の子どもたちを中心とした調査チームを結成し、保全会が管理する農業用水路にホトケドジョウがどれくらい棲んでいるのか、子供たちとともに調査を行う。

調査の結果、ホトケドジョウ6匹のほか、スナヤツメやシマトジョウなど多くの生き物を見つけた。

このような活動をきっかけに住民の団結力と、地域全体できれいな水を守り、ホトケドジョウが棲める環境を保護していきたいという思いを強めている。